



居 所 又 は 宛 名 先	職業及び勤務先	會員別	入 會 者 氏 名	紹 介 者 氏 名
横濱市鶴見區下末吉町 920	東亞精鐵會社横濱工場	准	谷 口 修 三君	關 口 俊 一
蒲田區新宿町 1,358	"	"	大 河 内 正 惠君	"
小石川區戸崎町 3 小高方	東京帝大學生	"	田 島 喜 久 雄君	吉 川 晴 十
長岡市袋町 3 丁目	北越水力電気會社藏王工場	"	開 發 不 二 男君	金 谷 三 松
福岡市箱崎相保町 1,402 青柳方	九州帝大學生	"	原 克 郎君	井 上 克 巳
八幡市祇園町 6 丁目	日鐵八幡製鐵所	"	中 山 義 正君	金 谷 三 松
福岡市向田町 62	九州帝大學生	"	小 田 芳 郎君	井 上 克 巳
福岡市馬場頭城南莊上通 山崎方	"	"	加 藤 毅君	"
富山縣新湊町 日本高周波重工業會社富山工場製鋼課	"	"	米 田 英 一君	茂 木 吉 治
足立區千住中居町 57	池貝鑄造所	"	篠 宮 信 義君	金 谷 三 松
朝鮮咸北城津邑 日本高周波社宅 220號	日本高周波重工業會社製鋼課	"	飯 田 増 吉君	益 田 義 三
大阪市此花區正岡町 1	日本曹達會社尼崎工場	"	辻 一 郎君	柳 田 小 太 郎
尼崎市昭和南通 9 の 264	尼崎製鋼所	"	杉 原 太 一 郎君	富 山 英 太 郎
戸畑市中原 日鐵社宅 117	日鐵八幡製鐵所戸畑作業所	"	佐 藤 哲 夫君	太 宰 三 郎
澁谷區向山町 32	日本鋼管會社扇町製鐵所	"	安 富 繁 雄君	松 島 喜 市 郎
小石川區大塚窪町 24	日本ピストンリング會社	"	大 庭 俊 一 郎君	飯 島 虎 雄
兵庫縣加古郡高砂町清水町 1,436	日本砂鐵鋼業會社高砂工場	"	熊 澤 猛 夫君	大 谷 一
大阪市大正區船町 3 丁目 中山製鋼所製鋼部	"	"	許 斐 篤君	増 田 作 美
小倉市許斐町 小倉製鋼會社製鋼部	"	"	山 庄 吾君	石 部 功
富山市西四十物町 51 春田方	報國砂鐵製鍊會社富山工場製鍊係	"	手 塚 裕 雄君	山 之 内 諄 博
大阪市西淀川區百島町 51 淀川製鋼所	"	"	石 井 松 太 郎君	稻 津 健 介
仙臺市小田原長丁通 日本金屬工業會社仙臺工場	"	"	堤 高 男君	金 谷 三 松

寄 贈 圖 書 紹 介

銑鐵共販業績編纂委員會編：本邦銑鐵統制販賣史

昭和 16 年 11 月 東京市麴町區三番町 1 第一書房刊行 A 列 5 番、793 頁 價 7 圓 銑鐵共同販賣株式會社は昭和 7 年 8 月創立より、昭和 13 年 7 月日滿鐵鋼販賣株式會社の創立の爲其業務を同社に譲渡する迄、猶其前身たる銑鐵共同組合の事業を通じて 13 年に亘り常に銑鐵需給の調節を第一義とし併せて生産、消費兩者の共存共榮と市價の安定を計り以て吾鐵鋼國策に貢献し來れり、猶進んで營利資本主義の修正をも希望し吾國統制經濟實行に其先驅をなしたり、本史は其業績を傳へ併せて統制業務上の参考に資せんため編纂せられたるものである。讀者の興味盡きざるものあらん、編者よりの御寄贈を深く謝す。